

## わたし しゅうしょくかつどう がいこくじん してん 私の就職活動 (外国人視点)

動画リンク : <https://youtu.be/QBQcAR7oK-M>

こんかい わたし しゅうしょくかつどう がいこくじん してん まな にほんご べんきょう  
今回は「私の就職活動 (外国人視点)」を学びながら、日本語を勉強しましよ  
う。

どうが ぜんはん すこ ぜんはん すこ  
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があり  
ます。

こうはん すこ はや かんじ  
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に " ふりがな " はありません。

がくしゅう やくだ  
学習にお役立ててください。

### わたし にほん であ ■私と日本の出会い

わたし じょん すミス げんざい さい にほん きょうみ  
私はジョン・スミスです。アメリカ出身で、現在は30歳です。日本に興味を  
も 持ったのは、だいがくせい とき にほん りょこう  
持ったのは、大学生の時に日本を旅行したことがきっかけでした。その時、日  
ん まち な でんどうてき たてもの ひとびと やさ かんどう  
本の街並みや伝統的な建物、そして人々の優しさにとっても感動しました。

りょこうちゅう とく いんしやう のこ にほん れきし ぶんか てら じんじゃ おとず  
旅行中、特に印象に残ったのは、日本の歴史と文化です。お寺や神社を訪れた  
とき にほん むかし ひとびと  
時、日本の昔の人々がどのように暮らしていたのかを考え、とてもワクワクし  
ました。さどう しょうどう うつく ところ うご にほん し  
ました。茶道や書道の美しさにも心を動かされ、もっと日本のことを知りたい  
とおも  
と思いました。

だいがく にほんご じゅぎょう う じゅぎょう すこ  
また、大学で日本語の授業を受けたこともありました。その授業で、少しずつ  
にほんご はな  
日本語を話せるようになっていくのがとても楽しかったです。日本語を学ぶう  
ちに、さらに にほん ぶんか れきし たい きょうみ ふか  
ちに、さらに日本の文化や歴史に対する興味が深まりました。

ゆうじん にほん はな おもしろい くに おどる  
友人にも日本のことを話すと、「なんて面白い国なんだろう」と驚かれました。  
にほん し  
日本のことを知るにつれて、「日本で働いてみたい」と考えるようになりました。  
わたし にほん きょうみ も にほん はたら おも  
た。これが、私が日本に興味を持ち、日本で働きたいと思うようになった最初  
のきっかけです。

## ■日本で働きたいと思った理由

私が日本で働きたいと思った理由は、日本の文化や歴史がとても面白いと感じたからです。日本に初めて来た時、お寺や神社を訪れたことや、日本の人々が持つ礼儀正しさに感動しました。また、日本語を少しずつ勉強していくうちに、その奥深さや美しさに魅了されました。

日本での就職を決意したのは、「日本で自分のスキルを生かしながら、もっと成長したい」と考えたからです。自分の国で学んだ知識や経験を、日本の仕事に活かせるのではないかと思いました。それに、日本で働くことで、より多くの日本語を使う機会が増え、日本の社会や文化についてもっと知ることができるとも感じました。

最初に行った行動は、たくさんの情報を集めることでした。インターネットで日本の企業の求人情報を探したり、日本語を今までよりもっと一生懸命に勉強しました。また、日本で働くためにはどのようなスキルが必要かを知るために、日本のビジネスマナーについても調べました。

私の国と日本の就職活動の違いに最初はとても驚きました。たとえば、日本ではエントリーシートという書類を使って自分を紹介するのが一般的です。これに対して、自分の国では面接で自分をアピールすることが多いです。日本の就職活動は、書類作成から始まり、会社への応募までのプロセスがとても几帳面だと感じました。

このようにして、日本で働くための第一歩を踏み出しました。

## ■言語の壁と文化の違いに直面したエピソード

就職するために日本を訪れたのは、3年前です。最初に、日本語をしっかりと学ぶために日本語学校に通い始めました。日本語を学び始めた時、私はたくさんの壁にぶつかりました。まず、日常会話のスピードに驚きました。教科書で学んだ日本語と、実際に使われる日本語には大きな違いがあります。特に、敬語やカジュアルな言い方の使い分けがとても難しく感じました。

日本の友人と話している時に、言葉の使い方を間違えてしまい、少し気まずい思いをしたことがあります。その時、友人は少し困った顔をしていましたが、後で優しく教えてくれました。この経験を通じて、言葉の使い方がとても大切だと学びました。

日本語には、同じ発音なのに意味が異なる言葉がたくさんあります。これが会話中に混乱を引き起こすことがあります。たとえば「橋」「箸」「端」はすべて「はし」と読みますが、それぞれ意味がまったく違います。

- ・橋 (bridge) : 水や道の上に木などをかけ渡して造った通路。
- ・箸 (chopsticks) : 食事をするために用いる細長い二本の棒。
- ・端 (edge) : ものの中央でない、外部に近い所。

文脈によってどの意味かを判断しなければならないのが難しいです。また、日本の文化の違いにも驚かされました。たとえば、会議中や話し合いの場での静かな雰囲気には最初は戸惑いました。自分の国では、会議の時に意見を言うことが普通ですが、日本ではあまり自分から意見を言わずに、まずは相手の話をしっかり聞くことが大切だと知りました。このことを理解するまで、何度も失敗しました。

さらに、日本の礼儀作法にも驚くことが多かったです。たとえば、おじぎをする場面や、名刺交換の仕方など、自分の国にはないルールがたくさんあります。

特におじぎは日本のビジネスマナーの中でも非常に重要な要素で、面接や仕事の場での第一印象を大きく左右します。私も最初は難しく感じましたが、練習を重ねることで徐々に自然にできるようになりました。

おじぎにはいくつかの種類があり、シチュエーションによって使い分けることが求められます。就職活動やビジネスシーンでよく使うのは、「会釈」「敬礼」「最敬礼」という3種類です。特に面接では、30度くらいの角度でお辞儀をする「敬礼」が基本となります。お辞儀の深さは、自分の敬意や感謝の気持ちを表すものなので、この30度の角度をしっかりと意識して行うことが大切です。

正しいおじぎの仕方は、まず背筋を伸ばしてまっすぐに立ちます。男性の場合は手を体の横に、女性の場合は前で手を重ねるのが一般的です。その後、腰からゆっくりと上半身を前に曲げていきます。重要なのは、背中を丸めないように注意し、まっすぐな姿勢を保ちながら動くことです。おじぎをしたら、1秒ほど静止してから、元の姿勢にゆっくりと戻ります。この一連の動作を焦らずに行うことで、落ち着いた印象を相手に与えることができます。

面接の際には、部屋に入るときや挨拶のとき、そして退出するときにおじぎをします。たとえば、面接室に入る前に軽く会釈をし、面接官に挨拶をする際には、しっかりとした30度のおじぎをするのが基本です。面接が終わって退出する際にも、「ありがとうございました」と言いながら丁寧なおじぎをすることが求められます。

実は、私も最初の頃はおじぎの角度が浅すぎて、面接官に失礼な印象を与えてしまったことがありました。その経験をきっかけに、日本語学校の先生や友人に正しいおじぎの方法を教えてもらい、鏡の前で繰り返し練習しました。その結果、面接で自信を持って自然におじぎができるようになりました。

これらの経験を通じて、私は言葉の壁だけでなく、文化の違いとも向き合いながら成長していると感じました。まだまだ学ぶことはたくさんありますが、それもまた日本での生活の楽しさだと思っています。

### ■エントリーシートや履歴書でのアピール方法

日本での就職活動で最初に苦労したのは、エントリーシートや履歴書の作成でした。自分の強みや経験を、日本語でわかりやすく書くことがとても難しかったです。特に、日本の企業に合わせた言葉選びや文章の書き方に悩みました。母国では、もっと自由に自己PRを書くことが多いですが、日本ではきちんとした形式や決まりに沿って書く必要があります。

エントリーシートでは、なぜその会社を選んだのか、自分がその会社にどのように貢献できるのかをしっかりと伝える必要がありました。でも、日本語でそれを説明するのは簡単ではありませんでした。最初は、自分の言いたいことをうまく伝えられず、何度も書き直しました。

また、日本の履歴書は手書きで書いたものが求められることもあります。手書きだと、一つ一つの字に気をつけて丁寧に書く必要があります。このプロセスは、少し時間がかかりますが、その分、自分の気持ちをしっかりと伝えられるように感じました。

自己PRを書く時には、自分の経験やスキルを、日本の企業がどのように評価するかを考えながら書きました。たとえば、「チームワーク」や「コミュニケーション能力」を強調することが多いですが、それを日本語でわかりやすく表現するのに工夫が必要でした。

書類選考を通して気づいたことは、日本の企業は人柄や考え方をとても大切にしているということです。スキルだけでなく、自分がその会社でどう成長したいか、どんな価値を提供できるかをしっかりと伝えることが大事だと感じました。この経験を通して、自分の言葉で自分を表現することの大切さを学びました。少しずつですが、日本語での自己アピールが上手になってきたと感じています。

## ■面接の準備

日本の企業での面接は、私にとってとても大きなチャレンジでした。まず、面接の準備として、何を質問されるかを考えながら、たくさん練習しました。たとえば、「あなたの強みは何ですか？」や「なぜこの会社を選びましたか？」という質問に対する答えを、何度も声に出して練習しました。

面接当日は、言葉の使い方や礼儀作法に特に気をつけました。面接の最初におじぎをするタイミングや、席に座る時の順番など、日本特有のマナーがたくさんあります。それらを間違えないようにするために、事前に友人に尋ねたり、インターネットで調べて勉強しました。

面接中に一番困ったのは、面接官が使う言葉が時々難しかったことです。専門的な言葉や表現が出てきた時、少し戸惑ってしまいました。でも、その時は正直に「すみません、もう一度ゆっくり言っていただけますか？」とお願いしました。相手は理解してくれて、簡単な言葉で説明してくれました。

また、面接官から「日本で長く働き続けたいですか？」と聞かれた時、私は少し緊張しました。でも、自分の気持ちをしっかりと伝えることが大切だと思い、「はい、日本の文化や働き方をもっと学びたいと思っています」と答えました。この時、自分の気持ちをまっすぐに伝えることができたと感じました。

面接が終わった後、どんな結果が出るかはわかりませんでしたが、自分ができる限りのことをやったという達成感がありました。この経験を通して、面接での自分の弱点や改善すべき点も見つけることができました。日本の面接は大変なことも多いですが、準備をしっかりと、緊張しても自分らしさを忘れずに話すことが大切だと感じました。

## ■内定獲得までの試練と達成感

内定をもらうまでの道のりは、決して簡単なものではありませんでした。たくさんの方に応募しましたが、最初はなかなか書類選考に通らず、くじけそうになることもありました。それでも、日本で働きたいという強い気持ちがあったので、あきらめずに挑戦を続けました。

書類選考を通過しても、面接でうまくいかなかったことが何度もありました。特に、日本語での自己紹介や志望動機を話すときに緊張してしまい、思ったように言葉が出てこないことがありました。でも、そのたびに反省し、次の面接に向けて準備をやり直しました。友人にも協力してもらい、面接の練習を重ねました。そして、ある日、ついに内定の連絡をもらった時は、本当にうれしかったです。それまでの努力が報われたと感じ、一緒に頑張ってくれた友人や家族に感謝の気持ちでいっぱいになりました。自分の日本語力が少しずつ向上していることも実感でき、ますます日本での生活が楽しみになりました。

内定をもらうまでに多くの失敗を経験しましたが、その失敗からたくさんのごとを学びました。失敗した時こそ、どうすればもっとよくなるかを考える良い機会だと感じました。また、周りの人々のサポートがどれだけ大切かを改めて知ることができました。この経験を通して、私は努力を続けることの大切さと、あきらめずに前向きに取り組む気持ちを学びました。最後に内定をもらえた時の達成感は、今でも忘れられません。これからも自分の成長を信じて、一步一步進んでいきたいと思えます。

## ■現在の仕事と日本での生活

現在、私は日本の会社で働いています。私の仕事は、主に海外の取引先とのコミュニケーションや、新しいプロジェクトの企画を行うことです。毎日、日本語と英語を使いながら仕事をしていて、日本語力をどんどん伸ばすことができます。日本の職場はとてもしっかりとしています。時間に正確で、みんなが協力して仕事を進める姿勢に感心しました。自分の国では、もっと自由な働き方が多かったのですが、最初は日本のルールや礼儀に戸惑うこともありましたが、今ではその規律正しさが日本の強みだと感じています。

同僚たちもとても親切で、困ったことがあればすぐに助けてくれます。最初は言葉の壁があって不安でしたが、みんなが優しくサポートしてくれたおかげで、少しずつ自信を持つことができました。また、ランチの時間には、日本の文化やおすすめの観光地について話をしてくれることが多く、毎日が新しい発見の連続です。

仕事を通じて、日本の働き方や考え方を学ぶことができ、とても充実しています。たとえば、報告・連絡・相談を大事にする文化があり、これによって仕事がスムーズに進むのを実感しています。これらの言葉はまとめて、「ほうれんそう」と呼ばれます。この「ほうれんそう」の考え方は、今では私にとっても大切なものになっています。

日本での生活も少しずつ慣れてきました。休日には、日本の伝統文化を学んだり、美しい風景を見に出かけたりしています。お花見や夏祭りなど、日本ならではの行事にも参加してみました。それらの体験を通して、日本の人々が大切にしているものを理解することができました。

### ■ 将来の夢と自分への期待

私には、日本での経験を通して、たくさんの夢があります。まず、日本語をもっと上手に話せるようになりたいです。今でも少しずつ成長していますが、もっと自然に、そして自信を持って日本語を使えるようになることが目標です。そして、日本の文化や歴史についても、さらに深く学びたいと思っています。私の将来のキャリアプランは、日本と自分の国をつなぐ架け橋になることです。今の仕事では、日本と海外の取引をサポートする役割を担っていますが、将来的にはもっと大きなプロジェクトを手がけたいです。異なる文化や価値観を理解し、お互いに尊重し合える環境を作りたいと思っています。

また、日本で学んだ「ほうれんそう」のような大切な考え方を、自分の国にも広めたいと思っています。日本の仕事のやり方には、多くの良い点があり、それを活かして自分の国のビジネスをより良くしたいです。自分の国と日本がもっと近くなり、お互いに協力して成長できる未来を描いています。私は日本でたくさんの挑戦を経験し、多くのことを学びました。時には難しいこともありましたが、その度に自分自身が強くなっていると感じました。これからも新しいことに挑戦し続け、自分の限界を超えていきたいです。

そして、私の夢は、日本で得た知識や経験を次の世代に伝えることです。これからも日本で成長し、自分自身が学んだことを多くの人々に伝え、日本と世界のつながりを深めるお手伝いをしていきたいと思っています。

このように、私はこれからも日本での生活や仕事を通して、自分の夢を追いかけ、成長し続けたいと考えています。夢を持つこと、それに向かって努力することが、私にとって一番大切なことだと信じています。

このようにして、仕事とプライベートの両方で日本の魅力を感じながら生活しています。これからも、日本での経験を通じて、自分自身を成長させていきたいと思っています。

「私の就職活動（外国人視点）」はいかがでしたか。

コメント欄から感想をみんなに教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



**Japanese-listening-SUSHI**

